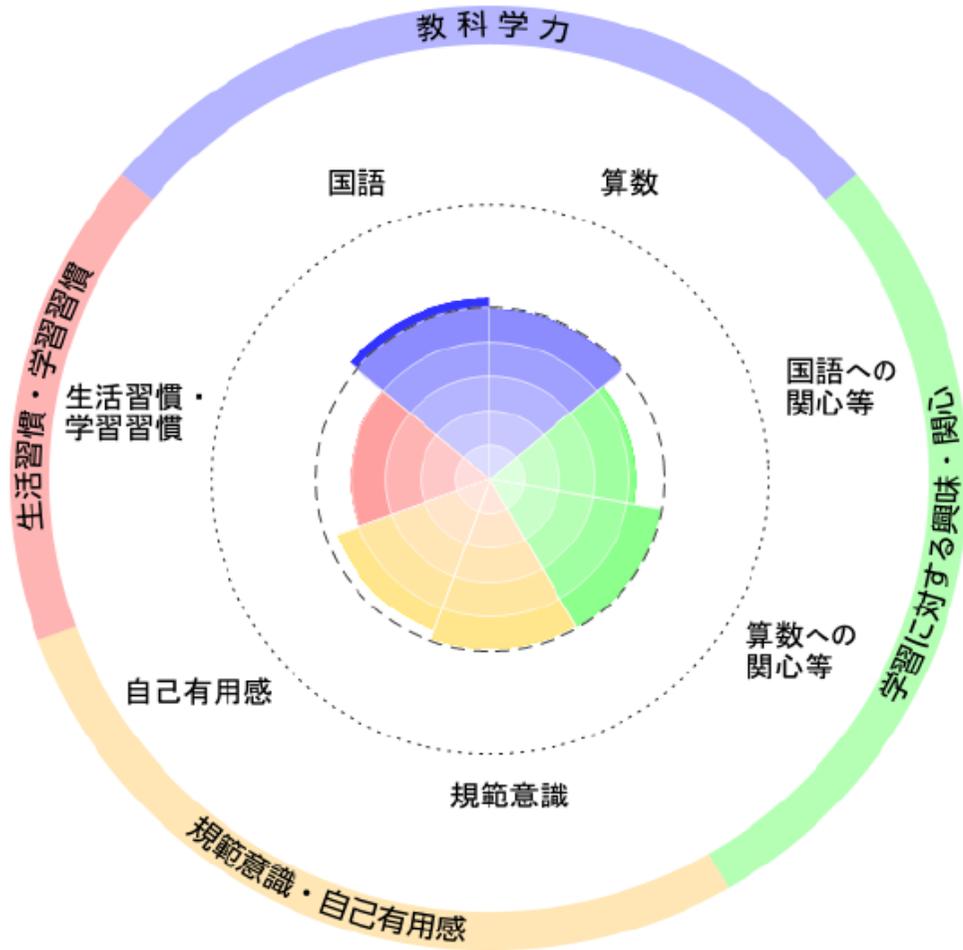


令和6年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙（全国基準と比較した本校の結果）



【考察】

○「規範意識」が全国平均とほぼ同じである。今後も、まじりの意義を考えたり、正しい行動を価値づけたりしながら規範意識を高めていく。「自己有用感」は、全国平均を下回っている。各教科の授業の中ではもちろん、行事や委員会活動、学級活動、他学年との交流等を通して、自己有用感を育てていく。

○生活習慣・学習習慣は全国平均を下回る結果になった。学習に前向きに臨むためにも、「篠五小家庭ルール」や「SNS篠五小家庭ルール」を活用しながら、生活習慣を整えられるよう家庭にも協力を促していく。

○算数科の学習への関心は、全国平均とほぼ同じであるが、国語科への関心は平均を下回っている。算数科では、日常的に算数的活動を取り入れ、算数への興味・関心を育てるとともに、ICTを活用した学習を通して反復学習をすることで基礎力の定着を図っていく。習熟度別の少人数指導を行い、習熟度に応じた丁寧な指導を行っていく。国語科では、児童が主体的に取り組みたいと思える単元の達成目標を提示したり、学習した内容が日常生活と繋がるような機会や本との出会いを設定したりする。